

第6章 酸性雨調査結果

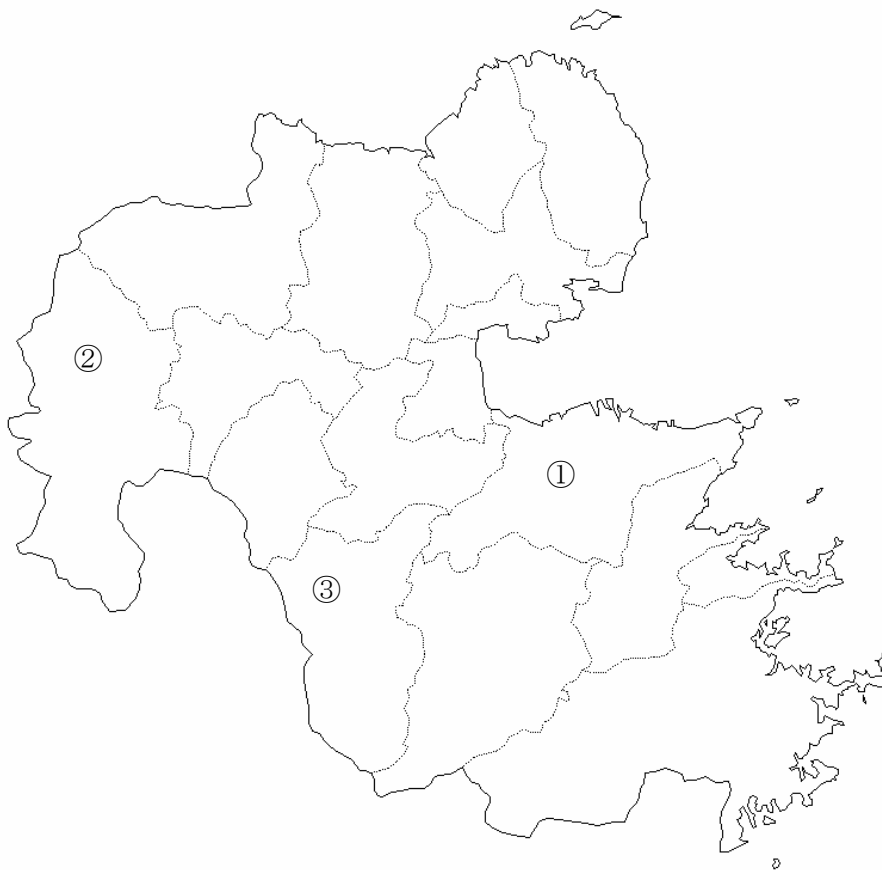
酸性雨とは、硫黄酸化物や窒素酸化物等の大気汚染物質の影響により、雨水のpH（水素イオン濃度指数）が5.6以下となった雨である。酸性雨は、欧米を中心に土壌や河川、湖沼の酸性化による生態系の変化、森林の衰退等の問題を引き起こしている。

本県では、県内における酸性雨の実態の把握と発生メカニズムの解析等を目的として、昭和60年より衛生環境研究センターで調査・研究をおこなっている。

〈調査地点・期間〉

調査地点：大分市、日田市、竹田市の計3地点

調査期間：平成20年4月～平成21年3月



番号	市町村	調査地点
①	大分市	県衛生環境研究センター
②	日田市	県林業試験場
③	竹田市	県畜産試験場

〈調査方法〉

ろ過式雨水採取装置により、一週間(竹田市では二週間)ごとの降水を採取し、pH計によりpHを測定する。

〈調査結果〉

各地点の平成20年度のpH年平均値は、大分市で4.54、日田市で4.74、竹田市で4.68であり、全測定地点で酸性雨の目安であるpH5.6を下回っている。

各調査地点の雨水のpH年平均値の調査結果を表6-1に、経年変化を図6-2に示す。過去5年間では、pH4.54～4.84の値で変動している。

表6-1 雨水のpH年平均値の調査結果

	H16	H17	H18	H19	H20
大分市	4.63	4.68	4.58	4.65	4.54
日田市	4.73	4.67	4.66	4.80	4.74
竹田市	4.65	4.63	4.73	4.84	4.68

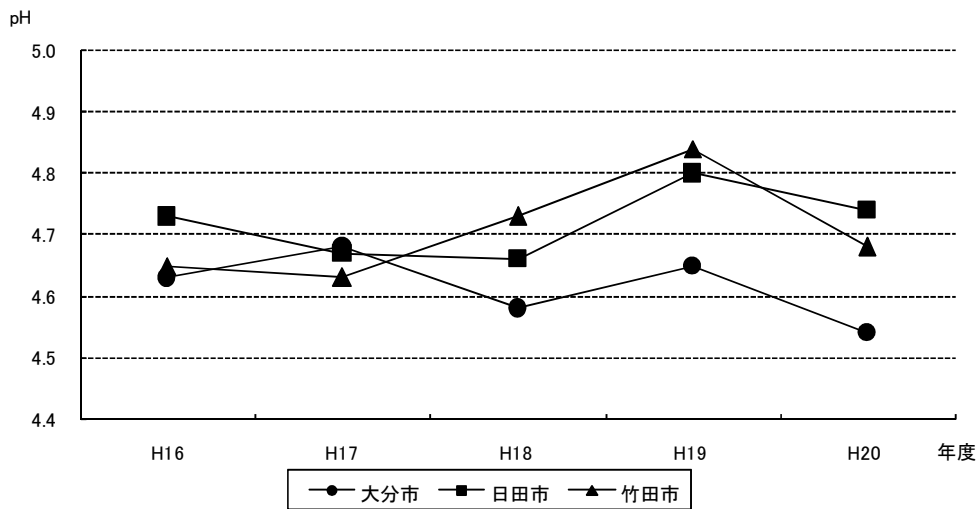


図6-2 雨水のpHの年平均値の経年変化

(参考) 全国の国設酸性雨測定所のpH年平均値の調査結果

	平成18年度	平成19年度
最小値	4.46	4.42
最大値	4.99	4.99